預言者伝（スィーラ）

第 18 巻

# カダーのウムラ

実現した夢とマッカでの三日間




Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my



© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

## 預言者伝（スィーラ）

### 第 18 巻

# カダーのウムラ

実現した夢とマッカでの三日間 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

لَّقَدْ صَدَقَ ٱللَّهُ رَسُولَهُ ٱلرُّءْيَا بِٱلْحَقِّ ۖ لَتَدْخُلُنَّ ٱلْمَسْجِدَ ٱلْحَرَامَ إِن شَآءَ ٱللَّهُ ءَامِنِينَ مُحَلِّقِينَ رُءُوسَكُمْ وَمُقَصِّرِينَ لَا تَخَافُونَ فَعَلِمَ مَا لَمْ تَعْلَمُوا۟ فَجَعَلَ مِن دُونِ ذَٰلِكَ فَتْحًا قَرِيبًا

「本当にアッラーは、使徒のためにかれの夢を真実になされた。もしアッラーが御望みなら、 あなたがたは、安心して必ず聖なるマスジドに入り、あなたがたの頭を剃、または（髪を）短かく刈り込んで（ハッジやオムラを全うする）。何も恐れることはないのである。かれはあなたがたが知らないことを知っておられる。そればかりか、かれは手近な一つの勝利を許された。」

勝利章 48:27

**HJ CHE ALIM HJ CHE HARON**

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

# 謝辞

使徒の夢を真実のものとなされ、ムスリムたちを安心して聖なるマスジドに入らせ、恐れることなく頭を剃り、また髪を短く刈らせられたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

**ザハラ・モハマド・ラティフ**；

愛する子どもたち、

**ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ**；

そして義理の子どもたち、

**ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワン**に捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 18 巻は、カダーのウムラを語ります。フダイビーヤの一年後のマッカへの帰還、力を示すためのラマルのスンナ、イブン・ラワーハの詩、母方のおばに託されたハムザの娘、そしてマイムーナとの結婚です。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

## この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは、**古い小道**が**暗い花崗岩の丘の切れ目**を下り、**広い谷**へと向かう**晴れた朝**の景色です。薄い霧が谷底を覆い、**金色の陽光**が遠くの丘の頂を照らしています。

丘の切れ目を下る小道は、フダイビーヤで阻まれた一年後、ムスリムたちが北側の丘陵の方角からマッカに入った瞬間を思い起こさせます。花崗岩の丘はマッカ周辺の実際の風景であり、晴れた朝の光はアッラーの約束を象徴しています：「あなたがたは、もしアッラーが御望みなら、安心して必ず聖なるマスジドに入る」（勝利章 48:27）。

**下部の紺色の帯**は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

# 目次

**カダーのウムラ** — はじめに

**1. フダイビーヤの一年後** — 『サヒーフ・ブハーリー』4252

**2. 真実の夢** — 勝利章 48:27

**3. 四つのウムラ — アッラーの使徒 ﷺ** — 『サヒーフ・ブハーリー』1778

**4. 聖月には聖月** — 雌牛章 2:194

**5. マディーナからの旅** — 図；スィーラ書

**6. マッカの入口でのイブン・ラワーハの詩** — 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2847

**7.「ヤスリブの熱病に弱められた」** — 『サヒーフ・ブハーリー』4256

**8. 今日まで続くラマルのスンナ** — 『サヒーフ・ブハーリー』4257、1605

**9. サファーとマルワ** — 雌牛章 2:158

**10. ウマルと黒石** — 『サヒーフ・ブハーリー』1597

**11. 聖殿：人びとのための最初の家** — イムラーン家章 3:96–97

**12. 三日間だけ** — 『サヒーフ・ブハーリー』4252；悔悟章 9:7

**13. ハムザの娘：「おじさま！」** — 『サヒーフ・ブハーリー』4251

**14.「母方のおばは母と同じ」** — 『サヒーフ・ブハーリー』4251

**15. 乳兄弟** — 婦人章 4:23；『サヒーフ・ブハーリー』2645

**16. マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス** — 『サヒーフ・ブハーリー』4258

**17. イフラーム中か、その後か** — 『サヒーフ・ムスリム』1411、1409

**18. サリフでの披露宴** — スィーラ書

**19. ウムラの後：ハーリドとアムルの入信** — 『サヒーフ・ムスリム』121；スィーラ書

**20. 私たちの生活の中のウムラ** — 雌牛章 2:196；『サヒーフ・ブハーリー』1773

**21. カダーのウムラの出典** — 図；表

**22. カダーのウムラの背後にあるクルアーンの節** — 表；22:25；2:217；48:25

**23. カダーのウムラの人物たち** — 表；『サヒーフ・ブハーリー』4255

**24. 礼拝行為が妨げられたとき：イフサールとイフラームの条件付け** — 『サヒーフ・ブハーリー』1810、5089；『スナン・アビー・ダーウード』1862

**25. マイムーナの家：イブン・アッバースの学び舎** — 『サヒーフ・ブハーリー』183、75、1989

**26. 年表：フダイビーヤからムウタへ** — 表

**27. カダーのウムラに関するよくある質問** — 12 の質問

**28. 教訓と結び**

**参考文献**

**支援と寄付**

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

# カダーのウムラ

『預言者伝（スィーラ）』第 15 巻は、アッラーの使徒 ﷺ と 1,400 人の教友がフダイビーヤでマッカに入ることを**阻まれ**、重い心でその地でイフラームを解いた様子を語りました。和約の条件の一つは、ムスリムはその年は帰り、**翌年にウムラを行うために戻ってくる**というものでした。

本巻は、**カダーのウムラ**を語ります。ちょうど一年後、ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月に行われたウムラです。アッラーの使徒 ﷺ が聖なるマスジドに入るという夢は実現し、ムスリムたちはクライシュの目の前で**ラマル**をしながらタワーフを行い、アブドゥッラー・ブン・ラワーハは詩を詠み、ハムザの娘という一人の孤児は身を寄せる場所を得、そしてアッラーの使徒 ﷺ は**マイムーナ**と結婚されました。

**カダーのウムラの年表（ヒジュラ7年ズル・カアダ月）**

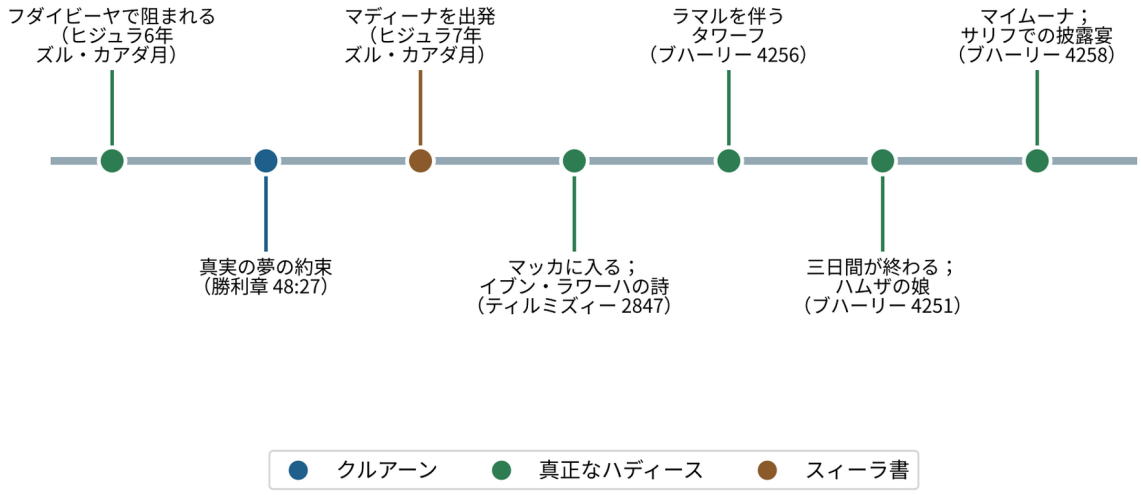



図 1：カダーのウムラの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

## フダイビーヤの一年後

両方の出来事に加わったアブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は、フダイビーヤの物語と翌年のウムラを、一つの簡潔なハディースにまとめています：

**ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4252 番**

حَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ رَافِعٍ، حَدَّثَنَا سُرَيْجٌ، حَدَّثَنَا فُلَيْحٌ، ح وَحَدَّثَنِي مُحَمَّدُ بْنُ الْحُسَيْنِ بْنِ إِبْرَاهِيمَ، قَالَ حَدَّثَنِي أَبِي، حَدَّثَنَا فُلَيْحُ بْنُ سُلَيْمَانَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ ـ رضى الله عنهما أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم خَرَجَ مُعْتَمِرًا، فَحَالَ كُفَّارُ قُرَيْشٍ بَيْنَهُ وَبَيْنَ الْبَيْتِ، فَنَحَرَ هَدْيَهُ، وَحَلَقَ رَأْسَهُ بِالْحُدَيْبِيَةِ، وَقَاضَاهُمْ عَلَى أَنْ يَعْتَمِرَ الْعَامَ الْمُقْبِلَ، وَلاَ يَحْمِلَ سِلاَحًا عَلَيْهِمْ إِلاَّ سُيُوفًا، وَلاَ يُقِيمَ بِهَا إِلاَّ مَا أَحَبُّوا، فَاعْتَمَرَ مِنَ الْعَامِ الْمُقْبِلِ، فَدَخَلَهَا كَمَا كَانَ صَالَحَهُمْ، فَلَمَّا أَنْ أَقَامَ بِهَا ثَلاَثًا أَمَرُوهُ أَنْ يَخْرُجَ، فَخَرَجَ.

**訳：**

イブン・ウマル رضى الله عنهما は次のように伝えています。**アッラーの使徒 ﷺ はウムラのために出発されたが、クライシュの不信者たちが使徒と聖殿の間を阻んだ。使徒はフダイビーヤで犠牲の動物を屠って頭を剃り、翌年ウムラを行うこと、剣のほかは武器を携えないこと、かれらが同意した期間だけマッカに滞在することを条件に、かれらと和約を結ばれた。 そこで使徒は翌年ウムラを行い、かれらとの約束どおりマッカに入られた。** 使徒が三日間滞在されると、かれらは退去を求め、使徒は出て行かれた。

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・ラーフィウ ← スライジュ・ブン・アン＝ヌウマーン ← フライフ・ブン・スライマーン；またムハンマド・ブン・アル＝フサイン・ブン・イブラーヒーム ← その父アル＝フサイン・ブン・イブラーヒーム ← フライフ・ブン・スライマーン ← ナーフィウ ← アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4252 番；第 2701 番にも。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4252

## このハディースの教訓

このハディースは二つのことを示しています。第一に、アッラーの使徒 ﷺ **和約のすべての条件を守られた**のです。鞘に収めた剣のほかは武器を持たず、求められると三日後きっかりに退去されました。第二に、クライシュもまた、前年には激しく拒んだムスリムの入城を**認め**ざるを得なかったのです。

フダイビーヤで悲しんだ教友たちは、いま自分たちの**忍耐の英知**を目にしました。ウマル رضى الله عنه はかつてこう尋ねました：「あなたは、私たちが聖殿に行ってタワーフをすると言われたではありませんか。」アッラーの使徒 ﷺ は答えられました：**「今年行くと言ったか。……あなたは必ずそこへ行き、タワーフをするのだ」**（『サヒーフ・ブハーリー』2731）。その約束が、いま果たされたのです。

## 出来事に満ちた一年

| 出来事 | 時期（おおよそ） |
|---|---|
| フダイビーヤの和約 | ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月 |
| 勝利章の啓示 | 帰り道 |
| 諸王への書簡 | ヒジュラ 6 年末 – 7 年初め |
| ハイバルの戦い | ヒジュラ 7 年ムハッラム月 |
| ジャアファルと船の一行がアビシニアから帰還 | ハイバル征服のとき |
| カダーのウムラ | ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月 |

一年のうちに、ムスリムの状況は**すっかり変わりました**。かつて重い心でフダイビーヤから帰った人びとが、いまはハイバルを開き、世界の王たちに呼びかけ、数を増した共同体として戻ってきたのです。『預言者伝』第 15・16・17 巻は、これらの出来事を詳しく語っています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 真実の夢

フダイビーヤからの帰途、アッラーは使徒の夢を真実とする節を下されました：**「本当にアッラーは、使徒のためにかれの夢を真実になされた。もしアッラーが御望みなら、あなたがたは、安心して必ず聖なるマスジドに入る」**『イブン・カスィール注釈』48:27。

この節にはきわめて具体的な描写があります：**「あなたがたの頭を剃り、または（髪を）短く刈り込んで。何も恐れることはないのである。」**まさにこれがカダーのウムラで起きたことです。かれらは聖なるマスジドに入り、タワーフをし、サアイを行い、そして三日間の安全のうちに、剃髪または散髪によって**イフラームを解いた**のです。

この節はさらにこう述べます：**「かれはあなたがたが知らないことを知っておられる。それればかりか、かれは手近な一つの勝利を許された。」**イブン・カスィールは、この手近な勝利とは**フダイビーヤの和約とハイバル**であると説明しています。一年の延期は敗北ではなく、勝利に次ぐ勝利への道を開いたのです。

### 預言者の夢は啓示である

アーイシャ رضى الله عنها は、アッラーの使徒 ﷺ への啓示の始まりは**真実の夢**であり、夢に見たことはすべて夜明けの光のように現実となったと語っています（『サヒーフ・ブハーリー』3）。それゆえ教友たちは、その夢が必ず真実となると確信していました。問題はただ**いつ**かということだけでした。

教訓：**アッラーの約束は必ず果たされる。**ただし、かれが定められた時にです。私たちはしばしばすぐに結果を求めますが、アッラーは延期の背後にある英知を知っておられます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 四つのウムラ — アッラーの使徒 ﷺ

アッラーの使徒 ﷺ は生涯に何回ウムラを行われたのでしょうか。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه がこの問いに答えており、その答えはカダーのウムラをより大きな流れの中に位置づけています：

**ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1778 番**

حَدَّثَنَا حَسَّانُ بْنُ حَسَّانٍ، حَدَّثَنَا هَمَّامٌ، عَنْ قَتَادَةَ، سَأَلْتُ أَنَسًا ـ رضى الله عنه ـ كَمِ اعْتَمَرَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم قَالَ أَرْبَعٌ عُمْرَةُ الْحُدَيْبِيَةِ فِي ذِي الْقَعْدَةِ، حَيْثُ صَدَّهُ الْمُشْرِكُونَ، وَعُمْرَةٌ مِنَ الْعَامِ الْمُقْبِلِ فِي ذِي الْقَعْدَةِ، حَيْثُ صَالَحَهُمْ، وَعُمْرَةُ الْجِعْرَانَةِ إِذْ قَسَمَ غَنِيمَةَ أُرَاهُ حُنَيْنٍ. قُلْتُ كَمْ حَجَّ قَالَ وَاحِدَةً.

**訳：**

カターダは言った。私はアナス رضى الله عنه に尋ねた：「預言者 ﷺ は何回ウムラをされましたか。」かれは答えた：「**四回です。多神教徒たちに阻まれたズル・カアダ月のフダイビーヤのウムラ、**かれらと和約を結ばれた翌年のズル・カアダ月のウムラ、**戦利品を分配されたときのジイラーナのウムラ — たしかフナインの戦いのときです。**」私は尋ねた：「ハッジは何回されましたか。」かれは答えた：「**一回です。**」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：ハッサーン・ブン・ハッサーン ← ハンマーム・ブン・ヤフヤー ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ウムラの書、預言者 ﷺ が何回ウムラをされたかの章、ハディース第 1778 番；第 1779–1780 番、4148 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1253 番。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1778

## このハディースの教訓

| ウムラ | 年と説明 |
|---|---|
| 1. フダイビーヤのウムラ | ヒジュラ 6 年ズル・カアダ月 — 阻まれ、フダイビーヤでイフラームを解く |
| 2. カダーのウムラ | ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月 — 三日間にわたり遂行 |
| 3. ジイラーナのウムラ | ヒジュラ 8 年ズル・カアダ月 — フナインの後 |
| 4. ハッジと共に行ったウムラ | ヒジュラ 10 年ズル・ヒッジャ月 — 別離の巡礼 |

学者たちは、**フダイビーヤのウムラも一回のウムラとして**数えます。完遂はされませんでしたが、かれらの意図と努力の報奨はすでに記録されたからです。これは、アッラーが結果だけでなく**意図と真剣さ**を評価されることを示しています。

興味深いことに、**すべて**の単独のウムラ — アッラーの使徒ﷺが行われたもの — は、聖月の一つである**ズル・カアダ月**に行われました。ジャーヒリーヤ時代、クライシュはハッジの月にウムラを行うことを悪いことと考えていましたが、アッラーの使徒ﷺは自らの行いによってその考えを打ち消されたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## ウムラとハッジ：共通点と相違点

| 項目 | ウムラとハッジ |
|---|---|
| 時期 | ウムラ：一年中いつでも；ハッジ：ハッジの月のみ |
| 共通の柱 | イフラーム、タワーフ、サアイ、剃髪または散髪 |
| ハッジに加わるもの | アラファでの立礼、ムズダリファとミナでの宿泊、投石 |
| 規定 | ハッジは生涯に一度の義務；ウムラは義務または強く推奨されるスンナ（見解が分かれる） |

ウムラはしばしば「**小巡礼**」と呼ばれます。一年中いつでも行うことができ、だからこそアッラーの使徒 ﷺ はハッジの季節を待たずにズル・カアダ月に戻ることができたのです。ウムラの法的位置づけには見解の相違があり、シャーフィイー派とハンバル派は生涯に一度の義務とし、マーリク派とハナフィー派は強く推奨されるスンナとしています。

## 聖月には聖月

イブン・カスィールと注釈学者たちは、イブン・アッバースらの伝承として、この節がカダーのウムラに関わることを伝えています：「**聖月には聖月**」『イブン・カスィール注釈』2:194。

その意味はこうです。ヒジュラ6年のズル・カアダ月に、クライシュは聖月の中でムスリムを聖殿から**阻みました**。そこでアッラーは、翌年のズル・カアダ月、ムスリムがマッカに**入った**ときをその代わりとされたのです。聖月には聖月で報いられ、阻まれたウムラは完全なウムラによって**償われた**のです。

**スィーラの注：このウムラの名称**

このウムラにはいくつかの名前があります：**ウムラ・アル＝カダー**（償いのウムラ、または合意のウムラ）、**ウムラ・アル＝カディーヤ**（和約の取り決めのウムラ）、**ウムラ・アル＝キサース**（報いのウムラ、2:194の節にちなむ）、そして**ウムラ・アッ＝スルフ**（和平のウムラ）です。アル＝バラーウのハディースにある「カダー」という語は、書き記された**合意**を指しています：「これはムハンマドが合意（カダー）したことである。」

学者たちは、フダイビーヤのウムラが阻まれたためにこのウムラを**償う義務があった**のか、それとも新しいウムラなのかについて意見が分かれています。イブン・アル＝カイイムは『**ザード・アル＝マアード**』において、これが「カダー」と呼ばれるのは償いの義務のためではなく、**和約**のためであるという見解に傾いています。

**参照：**

イブン・カスィール『タフスィール』（雌牛章 2:194）；イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』。https://tafsir.app/ibn-katheer/2/194

## マディーナからの旅

ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月、アッラーの使徒 ﷺ は、フダイビーヤに参加した人びとを含む教友たちとともにマディーナを出発されました。一行はマディーナの人びとのミーカートである**ズル・フライファ**でイフラームに入り、南のマッカへと進みました。

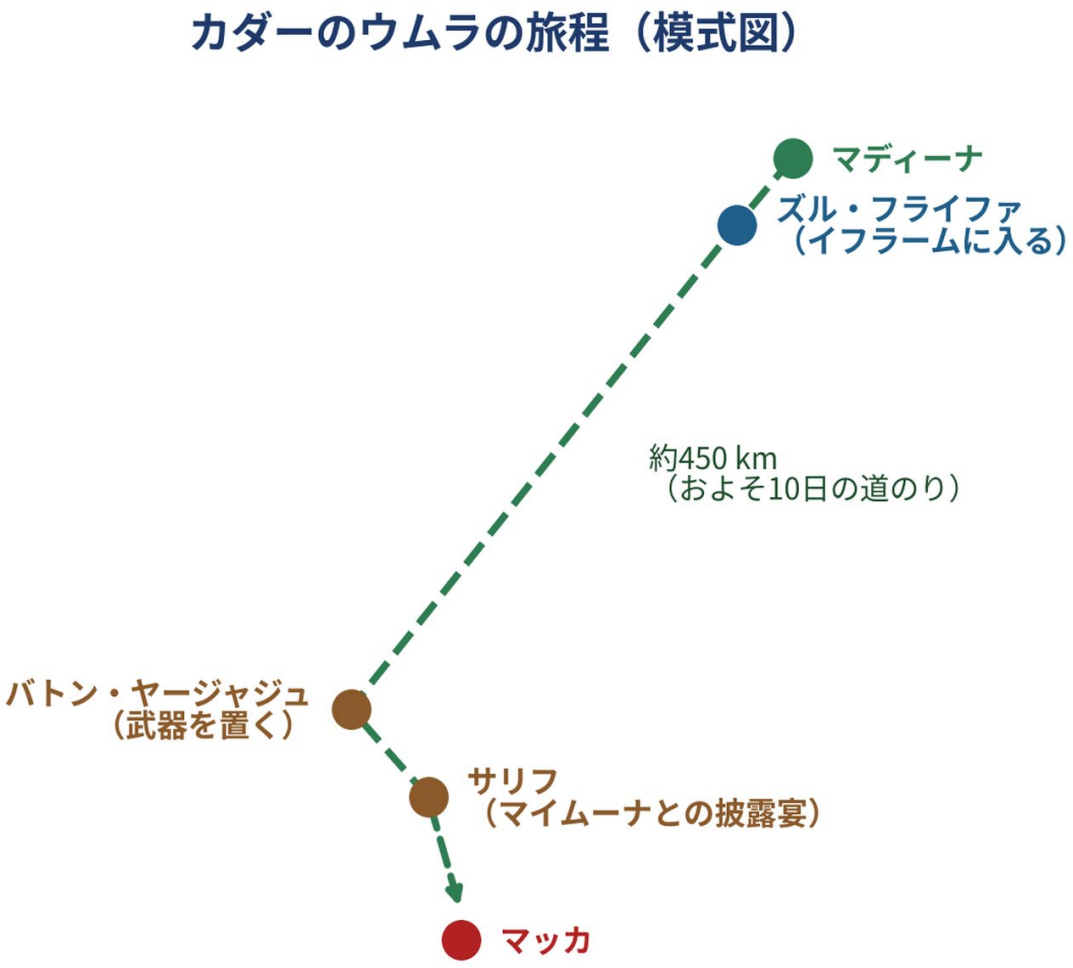



図 2：カダーのウムラの旅程（模式図）。

**スィーラの注：一行と武器**

イブン・サアドとアル＝ワーキディーは、一行がおよそ **2,000 人**で、**60 頭の犠牲のラクダ**を連れていたと伝えています。クライシュが和約を裏切るかもしれないと懸念されたアッラーの使徒 ﷺ は武器を携え、聖域の近くの**バトン・ヤージャジュに置いて**、およそ 200 人の教友に守らせました。一行は和約の条件どおり、**鞘に収めた剣**だけを携えてマッカに入りました。

これらの数字と地名は**スィーラ書の情報**です。真正であるのは、「剣のほかは武器を携えない」（『サヒーフ・ブハーリー』4252）、「鞘に収めた剣のほかは」（『サヒーフ・ブハーリー』4251）という条件です。

**参照：**
イブン・サアド『大伝記集』；アル＝ワーキディー『マガーズィー』；イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』。

教訓：**警戒しつつ約束を守る**。アッラーの使徒 ﷺ は条件を破られませんでしたが、裏切りの可能性に対して油断もされませんでした。誠実さと英知は、ともに歩むのです。

## マッカの入口でのイブン・ラワーハの詩

待ちわびた瞬間が訪れました。アッラーの使徒 ﷺ はラクダに乗ってマッカに入られ、タルビヤを唱える教友たちに囲まれていました。その前を、アンサールの著名な詩人**アブドゥッラー・ブン・ラワーハ** رضي الله عنه が歩いていました。アナス رضي الله عنه は語っています：

**ハディース ― 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 2847 番**

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مَنْصُورٍ، أَخْبَرَنَا عَبْدُ الرَّزَّاقِ، أَخْبَرَنَا جَعْفَرُ بْنُ سُلَيْمَانَ، حَدَّثَنَا ثَابِتٌ، عَنْ أَنَسٍ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم دَخَلَ مَكَّةَ فِي عُمْرَةِ الْقَضَاءِ وَعَبْدُ اللَّهِ بْنُ رَوَاحَةَ بَيْنَ يَدَيْهِ يَمْشِي وهو يَقُولُ خَلُّوا بَنِي الْكُفَّارِ عَنْ سَبِيلِهِ الْيَوْمَ نَضْرِبْكُمْ عَلَى تَنْزِيلِهِ ضَرْبًا يُزِيلُ الْهَامَ عَنْ مَقِيلِهِ وَيُذْهِلُ الْخَلِيلَ عَنْ خَلِيلِهِ فَقَالَ لَهُ عُمَرُ يَا ابْنَ رَوَاحَةَ بَيْنَ يَدَىْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَفِي حَرَمِ اللَّهِ تَقُولُ الشِّعْرَ فَقَالَ لَهُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم خَلِّ عَنْهُ يَا عُمَرُ فَلَهِيَ أَسْرَعُ فِيهِمْ مِنْ نَضْحِ النَّبْلِ.

**訳：**

アナス رضي الله عنه は伝えています。**預言者 ﷺ はカダーのウムラでマッカに入られ、アブドゥッラー・ブン・ラワーハがその前を歩きながら、こう詩を詠んだ：「不信者の子らよ、かれの道をあけよ。今日われらは、その啓示（クルアーン）のゆえにおまえたちを打つ……」**ウマルはかれに言った：「イブン・ラワーハよ、アッラーの使徒 ﷺ の前で、アッラーの聖域で、詩を詠むのか。」すると預言者 ﷺ は言われた：**「ウマルよ、かれにさせておけ。まことにそれは、かれらにとって矢を射るよりも速く届くのだ。」**

**伝承経路：** イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・ブン・マンスール ← アブドゥッラッザーク ← ジャアファル・ブン・スライマーン ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضي الله عنه。

**出典：** イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』礼儀の書、詩の朗誦に関する伝承の章、ハディース第 2847 番；『スナン・アン＝ナサーイー』第 2873 番にも。

**等級：** サヒーフ（真正）— イマーム・ティルミズィーは「ハサン・サヒーフ・ガリーブ」と評価し、シャイフ・アルバーニーはサヒーフと評価した。

典拠：https://sunnah.com/tirmidhi:2847

## このハディースの教訓

ウマル رضى الله عنه は、聖域で、またアッラーの使徒 ﷺ の前で詩を詠むのはふさわしくないと案じました。しかし使徒はそれを許されました。その詩は**真理を守り**、敵の士気をくじくもの — 「矢よりも速くかれらに届く」ものだったからです。良い詩は、宣教における**言葉の武器**なのです。

**スィーラの注：イブン・ラワーハか、カアブ・ブン・マーリクか**

イマーム・ティルミズィーはこのハディースの後に、詩を詠んだのは**カアブ・ブン・マーリク**であったという見解を挙げています。イブン・ラワーハはムウタで殉教していたから、というのがその理由です。しかしイブン・ハジャルは『**ファトフ・アル＝バーリー**』において、その理由は**正確ではない**と説明しています。ムウタの戦い（ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月）はカダーのウムラの**後**に起きたからです。したがって、イブン・ラワーハと述べる伝承が正しいのです。

**参照：**

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2847；イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』遠征の書。https://sunnah.com/tirmidhi:2847

## イスラームにおける詩

イスラームは詩を全面的に否定しているわけではありません。アッラーの使徒 ﷺ は言われました：「**まことに詩の中には英知がある**」（『サヒーフ・ブハーリー』6145）。また使徒は、自らの詩人ハッサーン・ブン・サービト رضى الله عنه に言われました：「**かれらの詩に応えよ。ジブリールがあなたと共にいる**」（『サヒーフ・ブハーリー』3213）。

イスラームにおける詩の基準は**その内容**です。真理と英知と信仰の擁護を含む詩は称賛され、嘘と罵りと罪を含む詩は非難されます。今日でも、良い**ナシード、詩、韻文**は、マッカの入口でのイブン・ラワーハの詩のように、効果的な宣教の手段となりえます。

## アッラーの使徒を守る ﷺ

和約があったとはいえ、教友たちは油断しませんでした。アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنه は、かれらがいかに**取り囲んで**アッラーの使徒 ﷺ をお守りしたか、使徒がタワーフとサアイを行われたときのことを語っています：

**ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4255 番**

حَدَّثَنَا عَلِيُّ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ، حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنْ إِسْمَاعِيلَ بْنِ أَبِي خَالِدٍ، سَمِعَ ابْنَ أَبِي أَوْفَى، يَقُولُ لَمَّا اعْتَمَرَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم سَتَرْنَاهُ مِنْ غِلْمَانِ الْمُشْرِكِينَ وَمِنْهُمْ، أَنْ يُؤْذُوا رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم.

**訳：**

イスマーイール・ブン・アビー・ハーリドは、イブン・アビー・アウファー رضى الله عنه がこう言うのを聞いた：「**アッラーの使徒 ﷺ がウムラを行われたとき、私たちは多神教徒の若者たちやかれらから使徒をお守りし、かれらがアッラーの使徒 ﷺ を傷つけないようにした。**」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：アリー・ブン・アブドゥッラー・アル＝マディーニー ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← イスマーイール・ブン・アビー・ハーリド ← アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4255 番；第 1600 番、1791 番にも。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4255

当時のマッカはまだ多神教徒の支配下にあり、かれらの若者の中には石を投げたり使徒を傷つけようとしたりする者がいたかもしれません。教友たちは**生きた盾**となり、いかにアッラーの使徒 ﷺ を愛し、守っていたかを示しました。教訓：**アッラーの使徒** ﷺ への愛は言葉だけではなく、犠牲と守りである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 

## 「ヤスリブの熱病に弱められた」

マッカの多神教徒はムスリムと衝突しませんでした。かれらはマッカ周辺の**丘に出て行き**、とくに北側のクアイキアーン山から見物しました。かれらはムスリムが**弱っている**という噂を広めていました。イブン・アッバース رضى الله عنهما は語っています：

**ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4256 番**

حَدَّثَنَا سُلَيْمَانُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا حَمَّادٌ ـ هُوَ ابْنُ زَيْدٍ ـ عَنْ أَيُّوبَ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ جُبَيْرٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ قَدِمَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَأَصْحَابُهُ فَقَالَ الْمُشْرِكُونَ إِنَّهُ يَقْدَمُ عَلَيْكُمْ وَفْدٌ وَهَنَتْهُمْ حُمَّى يَثْرِبَ. وَأَمَرَهُمُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَنْ يَرْمُلُوا الأَشْوَاطَ الثَّلاَثَةَ، وَأَنْ يَمْشُوا مَا بَيْنَ الرُّكْنَيْنِ، وَلَمْ يَمْنَعْهُ أَنْ يَأْمُرَهُمْ أَنْ يَرْمُلُوا الأَشْوَاطَ كُلَّهَا إِلاَّ الإِبْقَاءُ عَلَيْهِمْ. وَزَادَ ابْنُ سَلَمَةَ عَنْ أَيُّوبَ عَنْ سَعِيدِ بْنِ جُبَيْرٍ عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ قَالَ لَمَّا قَدِمَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لِعَامِهِ الَّذِي اسْتَأْمَنَ قَالَ ارْمُلُوا لِيَرَى الْمُشْرِكُونَ قُوَّتَهُمْ، وَالْمُشْرِكُونَ مِنْ قِبَلِ قُعَيْقِعَانَ.

**訳：**

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った：**アッラーの使徒 ﷺ と教友たちが到着すると、多神教徒たちは言った：「ヤスリブの熱病に弱められた一行がおまえたちのところにやって来る。」 そこで預言者 ﷺ はかれらに、三周は小走り（ラマル）をし、二つの隅の間は普通に歩くよう命じられた。**すべての周回で小走りをするよう命じられなかったのは、ひとえにかれらへの憐れみからであった。ハンマード・ブン・サラマの伝承では、安全が保障された年に預言者 ﷺ が到着されると、こう言われた：**「小走りをせよ。多神教徒たちにあなたがたの力を見せるために」**。そのとき多神教徒たちはクアイキアーン山の方にいた。

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：スライマーン・ブン・ハルブ ← ハンマード・ブン・ザイド ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← サイード・ブン・ジュバ

イル ← イブン・アッバース رضى الله عنهما；またハンマード・ブン・サラマがアイユーブから同じ経路で付け加えている。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4256 番；第 1602 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1266 番。

**等級：** サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4256

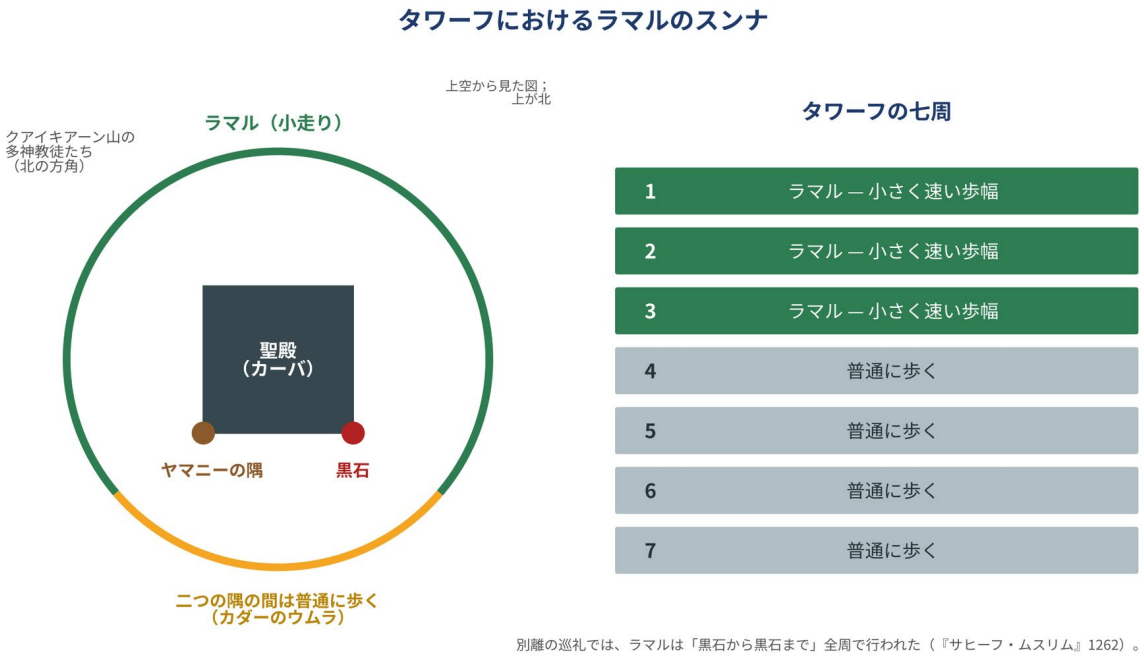



図 3：タワーフにおけるラマルのスンナ。

**ヤスリブの熱病**は実際に存在しました。アーイシャ رضى الله عنها は、ムハージルーンがマディーナに着いたとき、アブー・バクルとビラール رضى الله عنهما が熱病にかかり、アッラーの使徒 ﷺ がこう祈られたと伝えています：「**アッラーよ、私たちがマッカを愛したように、あるいはそれ以上に、マディーナを愛させてください。そしてその熱病をジュフファに移してください**」（『サヒーフ・ブハーリー』1889）。クライシュはムスリムがまだ弱っていると思いましたが、かれらは間違っていたのです。

## マディーナ：熱病から祝福へ

マディーナのためのアッラーの使徒 ﷺ の祈りは聞き届けられました。使徒はまたこう祈られました：「**アッラーよ、マッカに与えられた祝福の二倍をマディーナにお与えください**」（『サヒーフ・ブハーリー』1885）。かつて熱病で知られた町は、すべてのムスリムに**愛される**町となったのです。

「ヤスリブの熱病」というクライシュの嘲りに対する答えは**ラマル**、すなわち速く力強い足取りでした。教訓：かつて経験した弱さは、弱いままでいる理由にはならない。祈りと忍耐と努力によって、**弱さは力に変わりうる**のです。

## 今日まで続くラマルのスンナ

アッラーの使徒 ﷺ は、サファーとマルワの間のサアイでも**小走りをされました**。イブン・アッバース رضى الله عنهما はその目的を簡潔に説明しています：

**ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4257 番**

حَدَّثَنِي مُحَمَّدٌ، عَنْ سُفْيَانَ بْنِ عُيَيْنَةَ، عَنْ عَمْرٍو، عَنْ عَطَاءٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ إِنَّمَا سَعَى النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم بِالْبَيْتِ وَبَيْنَ الصَّفَا وَالْمَرْوَةِ لِيُرِيَ الْمُشْرِكِينَ قُوَّتَهُ.

**訳：**

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った：「**預言者 ﷺ が聖殿のタワーフとサファーとマルワの間のサアイで小走りをされたのは、ひとえに多神教徒たちに自らの力を見せるためであった。**」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・サラーム ← スフヤーン・ブン・ウヤイナ ← アムル・ブン・ディーナール ← アターウ・ブン・アビー・ラバーフ ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4257 番；第 1649 番にも；『サヒーフ・ムスリム』第 1266 番。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4257

### このハディースの教訓

ラマルは本来、敵に**力を見せる**ためのものでした。アッラーの使徒 ﷺ はまた、ヤマニーの隅と黒石の間 — クアイキアーンの多神教徒から**見えない**部分 — では普通に歩くよう教友たちに命じられました。疲れた者への**憐れみ**からです。

本来の理由がなくなっても、ラマルはなお定められているのでしょうか。ウマル رضى الله عنه はかつて言いました：「**ラマルが私たちに何の必要があろう。私たちは多**

**神教徒にそれを見せただけであり、アッラーはかれらを滅ぼされた。**」そして続けて言いました：「**それは預言者 ﷺ がなさったことであり、私たちはそれをやめたくない**」（『サヒーフ・ブハーリー』1605）。さらに別離の巡礼では、マッカがすでに開かれていたにもかかわらず、アッラーの使徒 ﷺ は最初の三周で**黒石から黒石まで全周**ラマルをされました（『サヒーフ・ムスリム』1262）。

## ラマル：今日のための簡単な手引き

| 項目 | 規定と方法 |
|---|---|
| 誰が | 男性のみ；女性はラマルをしない |
| いつ | サアイを伴うタワーフ：ウムラのタワーフと到着のタワーフ |
| 周回 | 最初の三周；残りの四周は普通に歩く |
| 方法 | 歩幅を小さく速く、胸を張って、跳ねずに |
| 混雑 | 混雑しているときは無理をしない；カーバの近くは義務ではない |

この手引きは、マナースィク（巡礼儀礼）に関する法学書の多数派の見解をまとめたものです。教訓：本来の理由がなくなっても私たちはアッラーの使徒 ﷺ のスンナに従います。それは最初の世代の奮闘を**思い起こさせ**、そして**使徒に従うこと自体が崇拝行為**だからです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## サファーとマルワ

タワーフの後、アッラーの使徒 ﷺ と教友たちはサファーとマルワの間でサアイを行いました。アッラーはこう言われています：「**本当にサファーとマルワは、アッラーの聖蹟の中である**」『イブン・カスィール注釈』2:158。

なぜこの節は、サアイをしても「罪ではない」と述べているのでしょうか。アーイシャ رضى الله عنها は、アンサールの一部が、ジャーヒリーヤ時代に両丘の上に偶像があったため、サファーとマルワの間のサアイを**ためらっていた**と説明しています。そこでアッラーはかれらの迷いを取り除くためにこの節を下され、アッラーの使徒 ﷺ は両丘の間のサアイを**定められた**のです（『サヒーフ・ブハーリー』1643）。

### ある母の足跡

サアイは**ハージャル**を思い起こさせます。預言者イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ の母であるかの女は、わが子のために水を求めてサファーとマルワの間を七度走り、ついにアッラーはザムザムの水を湧き出させられました。イブン・アッバース رضى الله عنهما はこの物語をアッラーの使徒 ﷺ から伝えており、使徒は言われました：「**それが、人びとが両丘の間を行き来するサアイである**」（『サヒーフ・ブハーリー』3364）。

カダーのウムラで、ムスリムたちはハージャル — 弱くともアッラーに身を委ねた一人の母 — の足跡を走り、多神教徒に**力**を示しました。本当の力は、数や武器からではなく、**アッラーへの信頼**から生まれるのです。

## ウマルと黒石

タワーフの各周回は**黒石**から始まり、黒石で終わります。アッラーの使徒 ﷺ はそれに口づけされるか、それを指し示されました。何年も後、ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه は、ムスリムが**なぜ**そうするのかをはっきりと説明しました：

**ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 1597 番**

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ كَثِيرٍ، أَخْبَرَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الأَعْمَشِ، عَنْ إِبْرَاهِيمَ، عَنْ عَابِسِ بْنِ رَبِيعَةَ، عَنْ عُمَرَ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّهُ جَاءَ إِلَى الْحَجَرِ الأَسْوَدِ فَقَبَّلَهُ، فَقَالَ إِنِّي أَعْلَمُ أَنَّكَ حَجَرٌ لاَ تَضُرُّ وَلاَ تَنْفَعُ، وَلَوْلاَ أَنِّي رَأَيْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم يُقَبِّلُكَ مَا قَبَّلْتُكَ.

**訳：**

アービス・ブン・ラビーアは伝えている。**ウマル رضى الله عنه は黒石のところに来てそれに口づけし、こう言った：「私は、おまえがただの石であり、害も益も与えないことを知っている。もし預言者 ﷺ がおまえに口づけされるのを見ていなかったなら、私はおまえに口づけしなかっただろう。」**

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・カスィール ← スフヤーン・アッ＝サウリー ← アル＝アアマシュ ← イブラーヒーム・アン＝ナハイー ← アービス・ブン・ラビーア ← ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』ハッジの書、黒石に関する伝承の章、ハディース第 1597 番；『サヒーフ・ムスリム』第 1270 番。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1597

### このハディースの教訓

ウマルのこの言葉は、深い**タウヒード（唯一神信仰）の教え**です。ジャーヒリーヤのアラブは石を崇拝し、ウマル自身もかつてそうでした。いまかれは、黒石は**益も**

**害も与えない**と明言しています。かれがそれに口づけするのは、ただ**アッラーの使徒**ﷺに従うためであり、石の力のためではないのです。

これが崇拝行為と迷信の違いです。崇拝行為とは**アッラーの命令とその使徒のスンナへの服従**であり、迷信とは物に力があると信じることです。カダーのウムラのムスリムたちは、聖殿の石ではなく、**聖殿の主**を崇拝したのです。

## 聖殿：人びとのための最初の家

アッラーは、かれらが訪れた家の位置づけを明らかにされています：「**本当に人々のために最初に建立された家は、バッカのそれで、それは生けるもの凡てへの祝福であり導きである**」『イブン・カスィール注釈』3:96。

「**その中には、明白な印があり、イブラーヒームが礼拝に立った場所がある。また誰でもその中に入る者は、平安が与えられる**」『イブン・カスィール注釈』3:97。

聖殿は、預言者イブラーヒームと預言者イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ によって、**アッラーだけを崇拝する**ために建てられました。しかしカダーのウムラのとき、その周りにはまだクライシュの**数百の偶像**がありました。アッラーの使徒 ﷺ は、多神崇拝に囲まれたタウヒードの家でタワーフをされましたが、偶像には手を触れられませんでした。それは**まだその時ではなく**、和約は尊重されなければならなかったからです。

**およそ一年後**、マッカ征服のときに、アッラーの使徒 ﷺ は聖なるマスジドに入り、カーバの周りの 360 の偶像を打ち倒しながらこう唱えられました：「**真理は来たり、虚偽は消え去った**」（『サヒーフ・ブハーリー』4287）。カダーのウムラは、その勝利の**前の一歩**だったのです。

## マカーム・イブラーヒーム

タワーフの後には、マカーム・イブラーヒームの後ろで二ラクアの礼拝をすることが推奨されます。アッラーはこう言われています：「**イブラーヒームの立処を、あなたがたの礼拝の場としなさい**」『イブン・カスィール注釈』2:125。

ウマル رضى الله عنه は言いました：「**私は三つのことで主の御心と一致した**」。その第一は、かれがマカーム・イブラーヒームを礼拝の場とするよう提案し、この節が下されたことでした（『サヒーフ・ブハーリー』402）。マカーム・イブラーヒームとは、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ がカーバを建てたときに立った石です。タワーフをするすべての人に、その場所におけるタウヒードの起源を思い起こさせる**一人の預言者の足跡**なのです。

## 三日間だけ

ムスリムたちは合意どおり**三日間**マッカに滞在しました。その三日間、マッカの人びとはムスリムの**品性** — 集団礼拝、清潔さ、落ち着き、互いへの思いやり — を自分の目で見ました。期間が終わると、クライシュはアリー رضى الله عنه のもとに使いを送って退去を求め（『サヒーフ・ブハーリー』4251）、アッラーの使徒 ﷺ は**ただちに出て行かれました**（『サヒーフ・ブハーリー』4252）。

アッラーは、相手が約束を守る限り、ムスリムも約束を守るよう命じられています：「**それでかれらがあなたがたに誠実である間は、あなたがたもかれらに誠実であれ。本当にアッラーは主を畏れる者を愛でられる**」『イブン・カスィール注釈』9:7。

> **スィーラの注：もっと長く滞在したいというアッラーの使徒ﷺの申し出**
>
> イブン・イスハークとアル＝ワーキディーは、四日目にフワイティブ・ブン・アブドゥル・ウッザーとスハイル・ブン・アムルが来て、使徒に退去を求めたと伝えています。アッラーの使徒 ﷺ は、マッカでマイムーナとの**結婚の披露宴を開き**、かれらを食事に招こうと申し出られました。かれらは拒みました：「**おまえの食事など要らない。われらの土地から出て行け。**」アッラーの使徒 ﷺ は反論されることなく出て行かれました。
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』；アル＝ワーキディー『マガーズィー』。

教訓：**敵との間でも約束を守る。**アッラーの使徒 ﷺ には留まる力がありましたが、誠実さを選ばれました。これが後に、フザーア族を攻撃してフダイビーヤの和約を**破った**クライシュとの違いとなり、マッカ征服の原因となったのです。

## ハムザの娘：「おじさま！」

ムスリムの一行がマッカを出るとき、とても心を打つ出来事が起こりました。一人の幼い女の子 — **ハムザ・ブン・アブドゥル・ムッタリブ** رضى الله عنه の娘で、ハムザはウフドで殉教したアッラーの使徒 ﷺ のおじです — が、一行を追って走ってきたのです。アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه は語っています：

**ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4251 番**

حَدَّثَنِي عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ مُوسَى، عَنْ إِسْرَائِيلَ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الْبَرَاءِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا اعْتَمَرَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فِي ذِي الْقَعْدَةِ، فَأَبَى أَهْلُ مَكَّةَ أَنْ يَدَعُوهُ يَدْخُلُ مَكَّةَ، حَتَّى قَاضَاهُمْ عَلَى أَنْ يُقِيمَ بِهَا ثَلاَثَةَ أَيَّامٍ، فَلَمَّا كَتَبُوا الْكِتَابَ كَتَبُوا، هَذَا مَا قَاضَى عَلَيْهِ مُحَمَّدٌ رَسُولُ اللَّهِ. قَالُوا لاَ نُقِرُّ بِهَذَا، لَوْ نَعْلَمُ أَنَّكَ رَسُولُ اللَّهِ مَا مَنَعْنَاكَ شَيْئًا، وَلَكِنْ أَنْتَ مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ. فَقَالَ أَنَا رَسُولُ اللَّهِ، وَأَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ. ثُمَّ قَالَ لِعَلِيٍّ امْحُ رَسُولَ اللَّهِ. قَالَ عَلِيٌّ لاَ وَاللَّهِ لاَ أَمْحُوكَ أَبَدًا. فَأَخَذَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم الْكِتَابَ، وَلَيْسَ يُحْسِنُ يَكْتُبُ، فَكَتَبَ هَذَا مَا قَاضَى مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ لاَ يُدْخِلُ مَكَّةَ السِّلاَحَ، إِلاَّ السَّيْفَ فِي الْقِرَابِ، وَأَنْ لاَ يَخْرُجَ مِنْ أَهْلِهَا بِأَحَدٍ، إِنْ أَرَادَ أَنْ يَتْبَعَهُ، وَأَنْ لاَ يَمْنَعَ مِنْ أَصْحَابِهِ أَحَدًا، إِنْ أَرَادَ أَنْ يُقِيمَ بِهَا. فَلَمَّا دَخَلَهَا وَمَضَى الأَجَلُ أَتَوْا عَلِيًّا فَقَالُوا قُلْ لِصَاحِبِكَ اخْرُجْ عَنَّا، فَقَدْ مَضَى الأَجَلُ. فَخَرَجَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم فَتَبِعَتْهُ ابْنَةُ حَمْزَةَ تُنَادِي يَا عَمِّ يَا عَمِّ. فَتَنَاوَلَهَا عَلِيٌّ، فَأَخَذَ بِيَدِهَا وَقَالَ لِفَاطِمَةَ ـ عَلَيْهَا السَّلاَمُ ـ دُونَكِ ابْنَةَ عَمِّكِ. حَمَلَتْهَا فَاخْتَصَمَ فِيهَا عَلِيٌّ وَزَيْدٌ وَجَعْفَرٌ. قَالَ عَلِيٌّ أَنَا أَخَذْتُهَا وَهْىَ بِنْتُ عَمِّي. وَقَالَ جَعْفَرٌ ابْنَةُ عَمِّي وَخَالَتُهَا تَحْتِي. وَقَالَ زَيْدٌ ابْنَةُ أَخِي. فَقَضَى بِهَا النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لِخَالَتِهَا وَقَالَ الْخَالَةُ بِمَنْزِلَةِ الأُمِّ. وَقَالَ لِعَلِيٍّ أَنْتَ مِنِّي وَأَنَا مِنْكَ. وَقَالَ لِجَعْفَرٍ أَشْبَهْتَ خَلْقِي وَخُلُقِي. وَقَالَ لِزَيْدٍ أَنْتَ أَخُونَا وَمَوْلاَنَا. وَقَالَ عَلِيٌّ أَلاَ تَتَزَوَّجُ بِنْتَ حَمْزَةَ. قَالَ إِنَّهَا ابْنَةُ أَخِي مِنَ الرَّضَاعَةِ.

**訳：**

アル＝バラーウ رضى الله عنه は和約の物語（第 15 巻で語られた）を伝えた後、こう言った：**使徒がマッカに入られ、（三日の）期間が過ぎると、かれらはアリーのもとに来て言った：「あなたの仲間に言ってくれ。期間は終わった、われらの土地から出て行け、と。」そこで預言者 ﷺ は出発された。するとハムザの娘が「おじさま！おじさま！」と呼びながら後を追ってきた。**アリーはかの女を引き取り、手を取って、ファーティマに言った：「あなたのおじの娘を連れて行きなさい。」するとアリー、ザイド、ジャアファルがかの女をめぐって言い争った。アリーは言った：「私が引き取った。それにかの女は私のおじの娘だ。」ジャアファルは言った：「かの女は私のおじの娘で、かの女の母方のおばは私の妻だ。」ザイドは言った：「かの女は私の兄弟の娘だ。」**そこで預言者 ﷺ は、かの女を母方のおばに託すとの裁定を下し、こう言われた：**「母方のおばは母と同じ立場である。」**使徒はアリーに言われた：**「あなたは私に属し、私はあなたに属する。」**ジャアファルには：**「あなたは容姿も性格も私に似ている。」**ザイドには：**「あなたは私たちの兄弟であり、私たちのマウラー（盟友）である。」**アリーは尋ねた：「ハムザの娘を娶られてはいかがですか。」使徒は答えられた：**「かの女は私の乳兄弟の娘だ。」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイドゥッラー・ブン・ムーサー ← イスラーイール・ブン・ユーヌス ← アブー・イスハーク・アッ＝サビーイー ← アル＝バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4251 番；第 2699 番にも。

**等級：** サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4251

## このハディースの教訓

多神教徒の中でマッカに暮らす一人の孤児を思い浮かべてください。父は四年前に殉教していました。親族がやって来たのを見て、かの女は「**おじさま！おじさま！**」と呼びながら走りました。おそらく父の甥であるアッラーの使徒 ﷺ を呼んでいたのでしょう。かの女は、自分を愛してくれる人びとと**一緒に行きたかった**のです。

**スィーラの注：ハムザの娘とは誰か**

イブン・ハジャルは『**ファトフ・アル＝バーリー**』において、かの女の名は**ウマーラ**であり、ほかにウマーマ、あるいはファーティマとする伝承もあると述べています。母は**サルマー・ビント・ウマイス**で、ジャアファル・ブン・アビー・ターリブの妻**アスマー・ビント・ウマイス**の姉妹でした。だからジャアファルは「かの女の母方のおばは私の妻だ」と言ったのです。

**参照：**

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』遠征の書、カダーのウムラの章。
https://sunnah.com/bukhari:4251

## ハムザ：殉教した父

この幼い子の父**ハムザ・ブン・アブドゥル・ムッタリブ** رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ のおじで、「**アッラーの獅子**」と呼ばれた人です。かれはヒジュラ 3 年のウフドの戦いで殉教しました。ワフシーが投げ槍で討ったことは、ワフシー自身が入信後に語っています（『サヒーフ・ブハーリー』4072）。

アッラーの使徒 ﷺ はハムザを「**殉教者たちの長**」と呼ばれました。これはアル＝ハーキムの伝承で、アルバーニーがサヒーフと評価しています（『真正伝承集（アッ＝スィルスィラ・アッ＝サヒーハ）』374）。ゆえにハムザの娘を養うことは、一人の殉教者の**犠牲を尊ぶ**ことでした。教友たちが争ったのは憐れみからだけでなく、その父の**功績を重んじた**からでもあったのです。

## 「母方のおばは母と同じ」

三人の高潔な男性が、一人の孤児を**養う**ことをめぐって争いました。財産をめぐる争いではなく、責任をめぐる争いです。それぞれが自分の根拠を述べました：

| 申し出た人 | その根拠 |
|---|---|
| アリー・ブン・アビー・ターリブ | かの女は私のいとこ；最初に引き取ったのは私 |
| ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ | かの女は私のいとこ；かの女の母方のおばは私の妻 |
| ザイド・ブン・ハーリサ | かの女は私の兄弟の娘（ハムザは私の義兄弟） |

アッラーの使徒 ﷺ は、イスラーム法学における**ハダーナ（子どもの養育）の規定**の基礎となる一つの原則によって裁定されました：「**母方のおばは母と同じ立場である。**」子どもの母がいなかったため、母方のおばアスマー・ビント・ウマイスに養育の優先権があったのです。そしてアスマーはジャアファルの妻でした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## ハダーナ：愛情を受ける子どもの権利

学者たちは、幼い子どもの養育においては、その優しさと忍耐のゆえに**女性**が優先されると説明しています。アッラーの使徒 ﷺ は、離婚されたある母親にこう言われました：「**あなたが再婚しない限り、あなたのほうがその子に対してより権利がある**」（『スナン・アビー・ダーウード』2276、ハサン）。母の次に最も権利がある者の一人が、母方のおばです。

ハダーナの規定の目的は**子どもの利益**であって、大人の利益ではありません。アッラーの使徒 ﷺ は、引き取ったのがアリーであってもかれには与えず、ハムザの義兄弟であってもザイドには与えられませんでした。使徒は、孤児の女の子にとって**最もふさわしい家** — 母方のおばの家 — を選ばれたのです。

私たちへの教訓：家族や社会の中の**孤児**は、放っておかれるのではなく、養うことを競われるべき存在です。アッラーの使徒 ﷺ は、人差し指と中指を示しながら言われました：「**私と孤児を養う者は、天国でこのようである**」（『サヒーフ・ブハーリー』5304）。

## 三人の教友への三つの称賛

裁定はジャアファルに下されましたが、アッラーの使徒 ﷺ はアリーとザイドを落胆したまま帰らせることはされませんでした。使徒は**一人ひとり**を、時代を超えてかれらの誉れとなる言葉で称賛されたのです：

| 教友 | アッラーの使徒の称賛 ﷺ |
|---|---|
| アリー | 「あなたは私に属し、私はあなたに属する」 |
| ジャアファル | 「あなたは容姿も性格も私に似ている」 |
| ザイド | 「あなたは私たちの兄弟であり、私たちのマウラーである」 |

これが**賢明な指導力**です。公正な裁定を下した後、権利を得られなかった側の心を、誠実な称賛によっていたわるのです。裁定が兄弟愛を断ち切ることはありませんでした。教友たちは、より遠くではなく、より近い心で帰って行ったのです。

その後まもなく、ジャアファルとザイド رضى الله عنهما はともに**ムウタで殉教し**（ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月）、アリー رضى الله عنه は後に第四代カリフとなりました。その日のアッラーの使徒 ﷺ の称賛は、かれらの何人かにとって甘美な**最後の思い出**となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 乳兄弟

アリー رضى الله عنه はその後、かの女が成人したらアッラーの使徒 ﷺ が**娶られる**よう提案しました。使徒は答えられました：「**かの女は私の乳兄弟の娘だ。**」ハムザ رضى الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ のおじであるだけでなく、**乳兄弟**でもあったのです。二人はともに、アブー・ラハブの女奴隷スワイバの乳で育てられました。

クルアーンは、結婚が禁じられた者を挙げ、その中に授乳による関係も含めています：「**兄弟の女児、姉妹の女児、授乳した乳母、同乳の姉妹**」『イブン・カスィール注釈』4:23。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がハムザの娘についてこう言われたと伝えています：「**かの女は私には許されない。血縁によって禁じられるものは、授乳によっても禁じられる。かの女は私の乳兄弟の娘だ**」（『サヒーフ・ブハーリー』2645）。

### 科学の注：母乳と家族の絆

イスラームは**授乳**を、結婚を禁じる家族の絆の一つとしています。現代科学によれば、母乳は単なる栄養ではありません。母乳には免疫細胞や**幹細胞**を含む**生きた細胞**、そして赤ちゃんの免疫系の発達を助ける抗体が含まれています（Witkowska-Zimny & Kaminska-El-Hassan, 2017, Cellular & Molecular Biology Letters）。母乳は文字どおり、乳を飲む子の**体をつくる**のです — 授乳を血縁のような関係とするシャリーアの英知にかなっています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス

カダーのウムラの旅の中で、アッラーの使徒 ﷺ は**マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス・アル＝ヒラーリーヤ** رضى الله عنها と結婚されました。かの女はマッカに住む寡婦で、**ウンム・アル＝ファドル**の姉妹でした。ウンム・アル＝ファドルはアッラーの使徒 ﷺ のおじアル＝アッバースの妻です。かの女の甥であるイブン・アッバース رضى الله عنهما は伝えています：

**ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4258 番**

حَدَّثَنَا مُوسَى بْنُ إِسْمَاعِيلَ، حَدَّثَنَا وُهَيْبٌ، حَدَّثَنَا أَيُّوبُ، عَنْ عِكْرِمَةَ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، قَالَ تَزَوَّجَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم مَيْمُونَةَ وَهْوَ مُحْرِمٌ، وَبَنَى بِهَا وَهْوَ حَلاَلٌ وَمَاتَتْ بِسَرِفَ.

**訳：**

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言った：「**預言者 ﷺ はイフラーム中にマイムーナと結婚され、イフラームを解いてからかの女と結ばれた。そしてマイムーナはサリフで亡くなった。**」

**伝承経路：** イマーム・ブハーリーの伝承：ムーサー・ブン・イスマーイール ← ウハイブ・ブン・ハーリド ← アイユーブ・アッ＝サフティヤーニー ← イクリマ ← イブン・アッバース رضى الله عنهما。

**出典：** イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、カダーのウムラの章、ハディース第 4258 番；第 4259 番（イブン・イスハークの付加：「カダーのウムラにおいて」）、1837 番、5114 番にも。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4258

## このハディースの教訓

イマーム・ブハーリーはこのハディースをカダーのウムラの章に置き、またかれが引用するイブン・イスハークの伝承には次のようにあります：「**預言者 ﷺ はカダーのウムラにおいてマイムーナと結婚された**」（『サヒーフ・ブハーリー』4259）。スィーラの学者たちによれば、マイムーナは**最後の妻**として、アッラーの使徒 ﷺ に娶られた人です。

### スィーラの注：マイムーナの家族

スィーラ書は、マイムーナが広い親族関係をもっていたと述べています。姉妹には**ウンム・アル＝ファドル**（アル＝アッバースの妻）、**ルバーバ・アッ＝スグラー**（ハーリド・ブン・アル＝ワリードの母）がおり、異父姉妹に**アスマー・ビント・ウマイス**と**サルマー・ビント・ウマイス**がいました。つまりかの女は、イブン・アッバースと**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**の母方のおばだったのです。もとの名は**バッラ**でしたが、アッラーの使徒 ﷺ が「祝福された者」を意味するマイムーナに改められました。

この結婚は、**親しい関係を築き**、アッラーの使徒 ﷺ をクライシュの大家族やヒラール族と結びつけました。一部のスィーラ学者によれば、これはハーリド・ブン・アル＝ワリードの心をイスラームへと和らげた要因の一つでもありました。

**参照：**

イブン・サアド『大伝記集』；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』。

Wikipedia「Maymunah bint al-Harith」。https://en.wikipedia.org/wiki/Maymunah_bint_al-Harith

## 信者たちの母

この結婚により、マイムーナは信者たちの母の一人となりました：「**かれの妻たちはかれらの母である**」『イブン・カスィール注釈』33:6。

アッラーの使徒 ﷺ の妻たちは**共同体の教師**でした。家庭生活、清潔、そして家でのアッラーの使徒 ﷺ の礼拝についての多くの規定が、かの女たちを通して私たちに伝わっています。マイムーナ自身も、**大浄（グスル）**の仕方 — アッラーの使徒 ﷺ のなさり方 — を詳しく伝えています。使徒は足を除いて礼拝のときのように小浄をし、陰部と汚れを洗い、全身に水を注ぎ、それから場所を移して足を洗われました（『サヒーフ・ブハーリー』249）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ の結婚には**宣教と教育の目的**がありました。マイムーナを通して、使徒の私生活に関する知識が守られ、後の世代 — 共同体の偉大な学者となった甥のイブン・アッバースを含む — に伝えられたのです。

## イフラーム中か、その後か

イブン・アッバースの伝承は、アッラーの使徒 ﷺ が**イフラーム中に**結婚されたと述べています。しかし、自らの結婚について最もよく知るマイムーナ自身は、異なることを伝えています：

**ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1411 番**

حَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ آدَمَ، حَدَّثَنَا جَرِيرُ بْنُ حَازِمٍ، حَدَّثَنَا أَبُو فَزَارَةَ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ الأَصَمِّ، حَدَّثَتْنِي مَيْمُونَةُ بِنْتُ الْحَارِثِ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم تَزَوَّجَهَا وَهُوَ حَلاَلٌ قَالَ وَكَانَتْ خَالَتِي وَخَالَةَ ابْنِ عَبَّاسٍ.

**訳：**

ヤズィード・ブン・アル＝アサンムは言った。マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス رضى الله عنها は私にこう語った。**アッラーの使徒 ﷺ は、イフラームを解いた状態（ハラール）のときにかの女と結婚された。**ヤズィードは言った：**マイムーナは私の母方のおばであり、イブン・アッバースの母方のおばでもあった。**

**伝承経路：** イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバ ← ヤフヤー・ブン・アーダム ← ジャリール・ブン・ハーズィム ← アブー・ファザーラ ← ヤズィード・ブン・アル＝アサンム ← マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス رضى الله عنها。

**出典：** イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』婚姻の書、イフラーム中の者の婚姻の禁止の章、ハディース第 1411 番。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1411

### このハディースの教訓

学者たちは、この二つの伝承を慎重に調和させました。**多数派の学者**（マーリク派、シャーフィイー派、ハンバル派）は、使徒が**イフラームを解いた状態で**結婚されたとするマイムーナの伝承を採っています。その理由はいくつかあります：

| 多数派の根拠 | 説明 |
|---|---|
| 当事者本人 | マイムーナ自身が伝えている |
| 結婚の使い | アブー・ラーフィウは自分が二人の間の使いであり、使徒はハラールであったと述べている（ティルミズィー 841） |
| 明確な禁止 | 「イフラーム中の者は結婚してはならず、結婚させてもならない」（ムスリム 1409） |
| イブン・アッバースの年齢 | 当時まだ幼く、十歳ほどであった |

一方ハナフィー派は、イブン・アッバースの伝承を採り、イフラーム中の婚姻契約を許容しています。この相違は、欲望ではなく伝承の吟味から生まれた**正当な見解の相違**の一例です。合意されているのは、イフラーム中に**妻と交わること**は禁じられているということです。

教訓：真正な伝承同士が異なって見えるとき、学者たちは**一方を安易に退けることはせず**、誰が最もよく知っているか、その文脈、そして他の証拠を比較衡量します。私たちは、知識に基づくすべての見解を尊重します。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## サリフでの披露宴

クライシュは、マッカで披露宴を開くというアッラーの使徒 ﷺ の申し出を拒みました。そこでムスリムの一行は出発し、アッラーの使徒 ﷺ はマッカの北およそ十マイルの**サリフ**という場所で**マイムーナと結ばれました。**

**スィーラの注：サリフでの始まりと終わり**

スィーラ書は、**アブー・ラーフィウ**ー アッラーの使徒 ﷺ のマウラー ー が、マイムーナをマッカからサリフへ連れて来るために残され、そこで使徒がかの女と結ばれたと伝えています。

イブン・アッバースは真正なハディースの中でこう言っています：「**そしてマイムーナはサリフで亡くなった**」（『サヒーフ・ブハーリー』4258）。歴史家によれば、マイムーナは**ヒジュラ 51 年**ごろに亡くなり、サリフに葬られました ― 信者たちの母としての生活を始めた**まさにその場所**です。甥のヤズィード・ブン・アル＝アサンムは、かの女が婚礼の天幕が張られた場所に葬られたと述べています。

**参照：**

『サヒーフ・ブハーリー』4258；イブン・サアド『大伝記集』；イブン・ハジャル『アル＝イサーバ』。https://sunnah.com/bukhari:4258

マイムーナは**敬虔で、親族の絆を大切にする**女性として知られていました。イブン・サアドが伝えるところでは、アーイシャ رضى الله عنها はかの女についてこう言いました：「**まことにかの女は、私たちの中で最もアッラーを畏れ、最も親族の絆を大切にする人でした。**」かの女は多くのハディースを伝えており、とくにアッラーの使徒 ﷺ の家庭生活と礼拝に関するものが多いのです。

教訓：クライシュに拒まれても、アッラーの使徒 ﷺ は別の場所で披露宴を開き、**妻を尊重されました。**他人の拒絶が、許された喜びを損なうことはないのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 

## ウムラの後：ハーリドとアムルの入信

カダーのウムラは、マッカの人びとの心に大きな印象を残しました。かつて追放されたムスリムたちが、**力と規律と高潔な品性**をもって戻ってきたのを目にしたのです。数か月後の**ヒジュラ8年サファル月**、クライシュの三人の名士がイスラームに入るためにマディーナへやって来ました。

**スィーラの注：ハーリド、アムル、そしてウスマーン・ブン・タルハ**

スィーラ書によれば、すでにムスリムとなってカダーのウムラに参加していたハーリドの兄弟**アル＝ワリード・ブン・アル＝ワリード**が、ハーリドに手紙を書きました。アッラーの使徒 ﷺ がかれについて「ハーリドはどこにいるのか。かれのような者がイスラームを知らずにいるはずがない」と尋ねられたからです。その手紙がハーリドの心を動かしました。

ハーリド・ブン・アル＝ワリード、**アムル・ブン・アル＝アース**、そして**ウスマーン・ブン・タルハ**（カーバの鍵の管理者）は、途中で出会い、ともにマディーナへやって来ました。アッラーの使徒 ﷺ はかれらを喜んで迎えられました。この伝承はスィーラ書で広く知られています（アル＝ワーキディー、イブン・サアド）。

**参照：**

アル＝ワーキディー『マガーズィー』；イブン・サアド『大伝記集』；イブン・カスィール『始まりと終わり（アル＝ビダーヤ・ワ・アン＝ニハーヤ）』。

アムル・ブン・アル＝アースの入信は真正なハディースに伝えられています。かれは忠誠を誓うために手を差し出したとき、その手を引っ込め、自分の罪が赦されることを条件として求めました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました：「**イスラームはそれ以前のものを消し去り、ヒジュラはそれ以前のものを消し去り、ハッジはそれ以前のものを消し去ることを、あなたは知らないのか**」（『サヒーフ・ムスリム』121）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

ハーリドは後に「**サイフッラー」— アッラーの剣**と呼ばれました。そう呼んだのはアッラーの使徒 ﷺ で、ムウタの戦いのときのことです（『サヒーフ・ブハーリー』4262）。教訓：崇拝におけるムスリムの**品性と堅固さ**は、最も頑なな敵に対する最も効果的な宣教となりうるのです。

## 私たちの生活の中のウムラ

アッラーは命じられています：「**アッラーのために、巡礼〔ハッジ〕と小巡礼〔オムラ〕を全うしなさい**」『イブン・カスィール注釈』2:196。

「**アッラーのために**」という言葉が鍵です。フダイビーヤで阻まれた教友たちは絶望しませんでした。かれらは一年後に戻り、アッラーのためにウムラを**全うした**のです。アッラーの使徒 ﷺ はその報奨を説明されました：「**ウムラから次のウムラまでは、その間の罪の償いとなる。そして受け入れられたハッジ（ハッジ・マブルール）の報いは天国のほかにない**」（『サヒーフ・ブハーリー』1773）。

| ウムラの行 | カダーのウムラとのつながり |
|---|---|
| ミーカートでのイフラーム | ズル・フライファでイフラームに入る |
| タルビヤ | タルビヤとイブン・ラワーハの詩とともにマッカに入る |
| 七周のタワーフ | 最初の三周でラマル |
| サファーとマルワのサアイ | 力を見せるために小走りする |
| 剃髪または散髪 | 「あなたがたの頭を剃り、または（髪を）短かく刈り込んで」（48:27） |

## まだ機会に恵まれない人のために

ヌサンタラ（東南アジアの島嶼部）の多くのムスリムは、何年もお金を貯めてウムラに備えますが、健康や経済、順番待ちのために**延期**を余儀なくされる人もいます。フダイビーヤとカダーのウムラの物語は希望を与えてくれます：実行が遅れても、**誠実な意図はアッラーのもとに記録される**のです。阻まれた教友たちも報奨を得ており、アッラーはかれの定められた時に道を開かれました。

すでにウムラを果たした人にとって、カダーのウムラは、ウムラが観光ではなく**服従の旅**であることを思い出させます。一歩一歩スンナに従い、聖域で品性を守り、より良い人間となって帰ること — 教友たちが帰ってマッカの人びとに深い印象を残したように。

## カダーのウムラの出典

カダーのウムラの物語は、確かさの度合いが異なる三種類の出典を通して私たちに届いています。本書は、読者が**何が確実で**、**何が広く知られているだけか**を区別できるよう、三者を分けて示しています：

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## カダーのウムラの物語の出典

### クルアーン（6）

- 真実の夢（48:27）
- 聖月には聖月（2:194）
- ハッジとウムラを全うせよ（2:196）
- サファーとマルワ（2:158）
- 約束を守る（9:7）
- 授乳による婚姻禁止（4:23）

### 真正なハディース（8）

- 翌年のウムラ；三日間
- アッラーの使徒の四つのウムラ
- 「ヤスリブの熱病」へのラマル
- 嫌がらせからの護衛
- イブン・ラワーハの詩
- ハムザの娘；「母方のおばは母と同じ」
- マイムーナとの結婚
- ウマルと黒石

### スィーラ書（4）

- 一行の人数と犠牲の動物
- バトン・ヤージャジュの武器
- サリフでの披露宴
- その後のハーリドとアムルの入信

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明したうえで述べている。

図 4：本書におけるカダーのウムラの物語の出典の位置づけ。

| 物語 | 典拠と等級 |
| --- | --- |
| 夢；聖月；サファーとマルワ；和約；授乳 | クルアーン（48:27；2:194；2:158；9:7；4:23）— 確実 |

| 物語 | 典拠と等級 |
|---|---|
| 三日間；四つのウムラ；ラマル；護衛 | 『サヒーフ・ブハーリー』4252、1778、4256、4257、4255 — サヒーフ（真正） |
| ハムザの娘；マイムーナ；黒石 | 『サヒーフ・ブハーリー』4251、4258、1597；『サヒーフ・ムスリム』1411 — サヒーフ（真正） |
| イブン・ラワーハの詩 | 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2847 — ハサン・サヒーフ |
| 一行の人数；バトン・ヤージャジュ；披露宴；ハーリド | スィーラ書 — よく知られる |

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

## カダーのウムラの背後にあるクルアーンの節

これまでの章では、クルアーンの節を物語の順に一つずつ取り上げてきました。この章ではそれらを一つの表にまとめ、マディーナでの夢から三日後のマッカ退去まで、クルアーンがこの出来事の一歩一歩にどのように寄り添っているかを見渡せるようにします。

| 節 | 要旨 | カダーのウムラとのつながり |
|---|---|---|
| 勝利章 48:27 | 使徒の夢が真実とされる：安心して聖なるマスジドに入り、剃髪・散髪する | 果たされた約束（第 2 章） |
| 雌牛章 2:194 | 聖月には聖月；神聖なものには同等の報いがある | ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月がヒジュラ 6 年ズル・カアダ月に代わる（第 4 章） |
| 雌牛章 2:196 | アッラーのためにハッジとウムラを全うせよ；妨げられた者の規定 | フダイビーヤと翌年のウムラ（第 20 章・第 24 章） |
| 雌牛章 2:158 | サファーとマルワはアッラーの聖蹟の一つ | このウムラでのサアイ（第 9 章） |
| 雌牛章 2:125 | マカーム・イブラーヒームを礼拝の場とせよ | タワーフの後のマカームの後ろでの礼拝（第 11 章） |
| イムラーン家章 3:96–97 | 人びとのための最初の家；そこに入る者は安全である | 待ちこがれた聖殿（第 11 章） |
| 悔悟章 9:7 | かれらが誠実である間は、あなたがたも誠実であれ | 三日後きっかりの退去（第 12 章） |
| 婦人章 4:23 | 結婚が禁じられた女性（授乳による関係を含む） | ハムザの娘（第 15 章） |
| 巡礼章 22:25 | 人びとを聖なるマスジドから妨げる者への非難 | 前年のクライシュによる妨害の背景 |
| 雌牛章 2:217 | アッラーの道と聖なるマスジドから妨げることはより重大な罪である | 前年のクライシュによる妨害の背景 |

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

| 節 | 要旨 | カダーのウムラとのつながり |
|---|---|---|
| 勝利章 48:25 | かれらこそ信仰を拒み、あなたがたを聖なるマスジドから妨げた者である | フダイビーヤ（第 15 巻） |

## すべての人びとのための聖なるマスジド

アッラーは聖なるマスジドについてこう言われています：「われが人びとのために建立した聖なるマスジド ― そこの居住者であろうと、外来者であろうと」（巡礼章 22:25）。ヒジュラ 6 年のクライシュは、まるで自分たちが聖殿の所有者で、望む者を誰でも締め出せるかのようにふるまいました。カダーのウムラは、この節の真実を取り戻しました。聖殿はアッラーのものであり、そのしもべたちにはそこを訪れる権利があるのです。

イブン・カスィールはその注釈で、この節が人びとを聖なるマスジドから妨げる者を非難しており、そこで崇拝する権利については地元の住民も外来者も等しいことを強調していると説明しています。この教訓は今日も生きています。クランタンからモロッコまで、世界中の巡礼者がカーバの前に一列に並んで立つのです。

## 教訓

クルアーンは出来事を語るだけでなく、それを通して共同体を導きます。出来事の前には希望を与え、その最中には規定を定め、その後には英知を明らかにするのです。クルアーンとともにスィーラを読むことで、物語は生き生きとし、導きを伴うものとなります。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 | 

## カダーのウムラの人物たち

カダーのウムラの物語には多くの名前が登場します。下の表は、かれらを部族と情報の出典とともにまとめたものです。真正なハディースに名前が出てくる人物と、スィーラ書にのみ名前が見える人物とを区別しています。

| 人物 | 部族 | 出来事での役割 | 典拠 |
|---|---|---|---|
| アブドゥッラー・ブン・ラワーハ | ハズラジュ族（アンサール） | マッカの入口で詩を詠む | 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2847 |
| アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー | アスラム族 | タワーフ中、多神教徒の嫌がらせからアッラーの使徒ﷺを守った者の一人 | 『サヒーフ・ブハーリー』4255 |
| アリー・ブン・アビー・ターリブ | クライシュ族、ハーシム家 | ハムザの娘を引き取る；フダイビーヤの和約を書き記す | 『サヒーフ・ブハーリー』4251 |
| ジャアファル・ブン・アビー・ターリブ | クライシュ族、ハーシム家 | ハムザの娘の養育権を与えられる | 『サヒーフ・ブハーリー』4251 |
| ザイド・ブン・ハーリサ | カルブ族（クダーア）；アッラーの使徒のマウラーﷺ | ハムザの娘の養育権を求める | 『サヒーフ・ブハーリー』4251 |
| ハムザの娘（ウマーラ） | クライシュ族、ハーシム家 | 「おじさま！」と呼んだ孤児 | 『サヒーフ・ブハーリー』4251；名前：『ファトフ・アル＝バーリー』 |
| アスマー・ビント・ウマイス | ハスアム族 | ジャアファルの妻；ハムザの娘の母方のおば | 『サヒーフ・ブハーリー』4251；伝記書 |

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

| 人物 | 部族 | 出来事での役割 | 典拠 |
|---|---|---|---|
| マイムーナ・ビント・アル＝ハーリス | ヒラール・ブン・アーミル族 | この旅の中でアッラーの使徒 ﷺ と結婚 | 『サヒーフ・ブハーリー』4258 |
| アブー・ラーフィウ | アッラーの使徒のマウラー ﷺ | マイムーナの結婚の使い | 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』841 |
| イブン・アッバース | クライシュ族、ハーシム家 | マイムーナの甥；ラマルと結婚の物語の伝承者 | 『サヒーフ・ブハーリー』4256、4258 |
| ウマル・ブン・アル＝ハッターブ | クライシュ族、アディー家 | 黒石で「おまえはただの石だ」 | 『サヒーフ・ブハーリー』1597 |
| スハイル・ブン・アムルとフワイティブ・ブン・アブドゥル・ウッザー | クライシュ、バヌー・アーミル・ブン・ルアイイ | 三日後にムスリムの退去を求めに来る | 名前：スィーラ書（イブン・イスハーク）；出来事：『サヒーフ・ブハーリー』4251 |
| ムハンマド・ブン・マスラマ | アウス族（アンサール） | 一行の先頭で騎兵隊を率いる | スィーラ書（アル＝ワーキディー） |

## イブン・アビー・アウファー：アッラーの使徒を囲む人の盾 ﷺ

**ハディース：私たちはアッラーの使徒をお守りした ﷺ**

アブドゥッラー・ブン・アビー・アウファー رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がウムラを行われたとき、教友たちが多神教徒とその若者たちから使徒を守り、かれらが使徒を傷つけないようにしたと語っています。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』4255、カダーのウムラの章。

和約と安全の保障があっても、教友たちは油断しませんでした。マッカはまだ多神教徒の支配下にあり、かれらの中には愚かなふるまいをする者がいたかもしれないため、タワーフ中のアッラーの使徒 ﷺ を囲んだのです。ここには二つのことが結びついています。和約を完全に守ることと、賢明に警戒することです。

## 教訓

この表のどの人物にも役割があります — 詩人、守り手、孤児の養い手、使い、伝承者。カダーのウムラが成功したのは、一人ひとりが自分の務めを果たしたからです。家族も、モスクも、社会も同じです。誰もが誠実に自分の役割を担うとき、成功が訪れるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

# 礼拝行為が妨げられたとき：イフサールとイフラームの条件付け

フダイビーヤとカダーのウムラは、ハッジとウムラの法学における重要な章、すなわちイフサールの章を生み出しました。イフサールとは、イフラームに入った人が礼拝行為を完遂することを妨げられた状態です。アッラーはこう言われています：「もしあなたがたが妨げられたならば、容易に得られる供物を（送りなさい）」（雌牛章 2:196）。

この章は、今日のムスリムの生活にとても身近なものです。ヌサンタラの多くの巡礼者が、ビザの却下、旅の途中での病気、事故、あるいは COVID-19 の流行時のような国境封鎖によって、妨げられた経験をもっています。

## アッラーの使徒ﷺのスンナを手引きとして

**ハディース：「アッラーの使徒ﷺのスンナで十分ではないか」**

サーリム・ブン・アブドゥッラーは、アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما がこう言ったと伝えています：「アッラーの使徒 ﷺ のスンナで、あなたがたには十分ではないか。あなたがたの誰かがハッジを妨げられたなら、（行けるのであれば）聖殿のタワーフとサファーとマルワの間のサアイをし、それからすべてのことからイフラームを解き、翌年ハッジを行って犠牲を捧げるか、それが見つからなければ斎戒をしなさい。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』1810、妨げられた者（アル＝ムフサル）の書。

**ハディース：骨折、あるいは足が不自由になった者**

アル＝ハッジャージュ・ブン・アムル・アル＝アンサーリー رضي الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えています：「（骨が）折れた者、あるいは足が不自由になった者は、イフラームが解けたことになり、翌年ハッジをする義務がある。」

等級：アルバーニーによればサヒーフ（真正）— 『スナン・アビー・ダーウード』1862。

## 条件付きのイフラーム

**ハディース：ドゥバーア・ビント・アッ＝ズバイル**

アーイシャ رضي الله عنها は、アッラーの使徒 ﷺ がドゥバーア・ビント・アッ＝ズバイルを訪ねて尋ねられたと伝えています：「ハッジをしたいのか。」かの女は答えた：「アッラーにかけて、私は具合が悪いのです。」使徒は言われた：「ハッジをして、条件をつけなさい。こう言いなさい：アッラーよ、あなたが私を引き止められる所が、私がイフラームを解く所です。」

ドゥバーアは、アッラーの使徒 ﷺ のいとこであるアッ＝ズバイル・ブン・アブドゥル・ムッタリブの娘で、アル＝ミクダード・ブン・アル＝アスワドの妻でした。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』5089；『サヒーフ・ムスリム』1207 にも。

このハディースは、イフラームの意図を表明する際に条件をつける「イシュティラート」の慣行の根拠となっています。病気の人や妨げられることを恐れる人は、意図を表明するときにこう言うことができます：「アッラーフンマ・マヒッリー・ハイスゥ・ハバスタニー」（アッラーよ、あなたが私を引き止められる所が、私がイフラームを解く所です）。本当に妨げられた場合、イシュティラートを認める見解によれば、その人は犠牲（ダム）なしにイフラームを解きます。

## 法学者たちの見解のまとめ

| 問題 | 見解 | 根拠／備考 |
|---|---|---|
| 何がイフサールとみなされるか | 多数派：敵による妨害。ハナフィー派：病気やその他の原因も含む。シャーフィイー派：条件をつけていない限り、病気はイフサールとみなさない | 2:196；フダイビーヤ；ドゥバーアのハディース |
| 犠牲（ハディ）を屠る | 多数派によれば、イフラームを解く前に義務 | 「容易に得られる供物を（送りなさい）」（2:196） |
| 屠る場所 | シャーフィイー派：フダイビーヤのように、妨げられた場所で。ハナフィー派：聖域で | フダイビーヤでの預言者ﷺの行い |
| やり直し（カダー）は義務か | シャーフィイー派とマーリク派：その行が任意のものであれば義務ではない；イスラームの義務としてのハッジは残る。ハナフィー派：やり直しは義務 | 法学書；『ファトフ・アル＝バーリー』妨げられた者の書 |
| イシュティラート（条件付きのイフラーム） | シャーフィイー派とハンバル派は認める；ハナフィー派とマーリク派は考慮しない | 『サヒーフ・ブハーリー』5089；『サヒーフ・ムスリム』1207 |

この表は、イブン・ルシュドの『ビダーヤト・アル＝ムジュタヒド』やイブン・クダーマの『アル＝ムグニー』などの比較法学書から一般的な内容をまとめたものです。実際の事例については、巡礼者はムタウウィフ（巡礼案内人）、巡礼の指導者、または権威あるムフティーに相談してください。

## 教訓

イスラームは、しもべに能力を超えたことを課しません。誠実な意図をもちながら妨げられた人は、その報奨を失いません。定められた方法でイフラームを解き、次の機会を待つのです — 教友たちが一年待ち、戻ってカダーのウムラを果たしたように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

# マイムーナの家：イブン・アッバースの学び舎

カダーのウムラの旅の中でのアッラーの使徒 ﷺ とマイムーナ رضى الله عنها との結婚（第 16 章）は、大きな知識の扉を開きました。マイムーナはアブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما の母方のおばでした。このハーシム家の若者は、おばの家 — それはアッラーの使徒 ﷺ の家でもありました — に自由に出入りし、そこで観察し、尋ね、学んだのです。

## おばの家での一夜

**ハディース：イブン・アッバース、マイムーナの家に泊まる**

アブドゥッラー・ブン・アッバース رضى الله عنهما は、預言者 ﷺ の妻であり自分の母方のおばであるマイムーナの家に泊まったことを語っています。アッラーの使徒 ﷺ は眠り、夜中に起きて顔から眠気をぬぐい、イムラーン家章の最後の十節を読み、小浄をして礼拝に立たれました。イブン・アッバースも起きて使徒の左側に立つと、使徒はかれの耳をつかんで右側に移されました。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』183；『サヒーフ・ムスリム』763 にも。

この一夜から、学者たちは多くの規定を導き出しました。一人の後続者はイマームの右側に立つこと、夜に起きたときにイムラーン家章の最後を読むことがスンナであること、そしてアッラーの使徒 ﷺ の夜の礼拝の仕方です。注意深く見ていた一人の子どもが、時代を超えて共同体の知識の源となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 

## 「クルアーンの解釈者」を形づくった祈り

**ハディース：「アッラーよ、かれに啓典を教えてください」**

イブン・アッバース رضي الله عنهما は言った：アッラーの使徒 ﷺ は私を抱きしめて言われた：「アッラーよ、かれに啓典（クルアーン）を教えてください。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』75。別の伝承では、使徒はこう祈られた：「アッラーよ、かれに宗教の理解をお与えください」（『サヒーフ・ブハーリー』143）。

この祈りは聞き届けられました。イブン・アッバースは後に「トゥルジュマーン・アル＝クルアーン」（クルアーンの解釈者）、「ヒブル・アル＝ウンマ」（共同体の学者）と呼ばれるようになりました。かれの解釈は、今日に至るまで注釈学者たちの主要な典拠となっています。その知識の一部は、おばマイムーナの家で始まったのです。

## マイムーナの知恵：アラファの日の一杯の乳

**ハディース：使徒はアラファの日に斎戒されていたか**

マイムーナ رضي الله عنها は、人びとが預言者 ﷺ はアラファの日に斎戒されているのかどうか迷っていたと伝えています。そこでかの女は、使徒が立礼をされているところへ一杯の乳を届け、使徒は人びとが見ている前でそれを飲まれました。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』1989；『サヒーフ・ムスリム』1124 にも。

マイムーナは議論したり声高に尋ねたりせず、一つの賢明な行動で人びとの迷いを解きました。このハディースから学者たちは、アラファで立礼するハッジの巡礼者には、祈りに力を尽くせるよう斎戒は推奨されないという規定を導き出しています。

## 生涯にわたる知識の守り手

イブン・ハジャルの『アル＝イサーバ』やアッ＝ザハビーの『スィヤル・アアラーム・アン＝ヌバラー』などの伝記書は、マイムーナがいくつものハディースを伝えたと述べています。その中には、アッラーの使徒 ﷺ の大浄の仕方に関するもの（『サヒーフ・ブハーリー』249；第 16 章）があります。もう一人の甥ヤズィード・ブン・アル＝アサンムもかの女から伝えており、その中にはかの女自身の結婚に関するハディース（『サヒーフ・ムスリム』1411；第 17 章）も含まれています。

イブン・アッバースが述べているように（『サヒーフ・ブハーリー』4258）、マイムーナはアッラーの使徒 ﷺ と結婚したのと同じ場所、サリフで亡くなりました。没年は伝記書の中で見解が分かれていますが、よく知られた見解はヒジュラ 51 年です。

## 教訓

家は最初の学び舎です。崇拝と知識に満ちた家は、学識ある世代を育てます。両親、祖父母、おじやおばは皆、家族の子どもたちの教師となることができます — マイムーナがイブン・アッバースにとってそうであったように。

## 年表：フダイビーヤからムウタへ

下の表は、カダーのウムラをより大きな出来事の流れの中に位置づけるものです。真正なハディースに記されていない日付は、スィーラ書（イブン・イスハーク、アル＝ワーキディー、イブン・サアド）によるもので、おおよそのものです。

| 時期（おおよそ） | 出来事 | 典拠 |
|---|---|---|
| ヒジュラ暦 6 年ズル＝カアダ月 | ムスリムがフダイビーヤで阻まれ、和約が結ばれる | 『サヒーフ・ブハーリー』2731 |
| 帰り道 | 勝利章が下され、アッラーの使徒の夢が真実とされる 🕋 | 勝利章 48:27 |
| ヒジュラ 6 年末 – 7 年初め | 諸王への書簡 | 第 17 巻 |
| ヒジュラ 7 年ムハッラム月 | ハイバルの戦い；ジャアファルと船の一行がアビシニアから帰還 | 第 16 巻 |
| ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月 | 一行がカダーのウムラのためにマディーナを出発 | 『サヒーフ・ブハーリー』4252；スィーラ書 |
| ヒジュラ 7 年ズル・カアダ月 | 武器をバトン・ヤージャジュに置く；タルビヤと詩とともに一行がマッカに入る | 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』2847；スィーラ書 |
| マッカでの第一日 | ラマルとイドティバーウを伴うタワーフ；サアイ；剃髪 | 『サヒーフ・ブハーリー』4256、4257 |
| マッカでの三日間 | ムスリムがマッカに滞在；マイムーナとの結婚 | 『サヒーフ・ブハーリー』4252、4258 |
| 三日の後 | クライシュが退去を求める；ハムザの娘が一行の後を追う | 『サヒーフ・ブハーリー』4251 |
| 帰り道 | サリフで披露宴が行われ、結婚が完了する | 『サヒーフ・ブハーリー』4258；スィーラ書 |
| ヒジュラ 7 年ズル・ヒッジャ月 | 一行がマディーナに帰還 | スィーラ書 |

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

| 時期（おおよそ） | 出来事 | 典拠 |
|---|---|---|
| ヒジュラ 8 年サファル月 | ハーリド・ブン・アル＝ワリード、アムル・ブン・アル＝アース、ウスマーン・ブン・タルハが入信 | 『サヒーフ・ムスリム』121；スィーラ書 |
| ヒジュラ 8 年ジュマーダー・アル＝ウーラー月 | ムウタの戦い；ザイドとジャアファルが殉教；ハーリドが「サイフッラー」と呼ばれる | 『サヒーフ・ブハーリー』4262；第 19 巻 |
| ヒジュラ 8 年ラマダーン月 | マッカ征服 | 『サヒーフ・ブハーリー』4287；第 20 巻 |

## 教訓

二年足らずのうちに、状況はフダイビーヤでの妨害からマッカ征服へと変わりました。カダーのウムラはその道のりの真ん中にあります — 大きな変化はしばしば、忍耐と服従を通して段階的に訪れるという印です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

# カダーのウムラに関するよくある質問

## 1. なぜこのウムラは「アル＝カダー」と呼ばれるのですか。

フダイビーヤの和約における合意（カディーヤ）に基づいて行われたからです。ウムラ・アル＝カディーヤ、アル＝キサース、アッ＝スルフとも呼ばれます（第 4 章）。ブハーリーはその章を「ウムラ・アル＝カダー」と名づけています。

## 2. このウムラには何人が参加したのですか。

スィーラ書は、フダイビーヤに参加した人びとやそのほかの人を含めて、およそ 2,000 人と述べています（第 5 章）。この数字はスィーラ書によるもので、真正なハディースによるものではありません。

## 3. なぜ教友たちはラマルをしたのですか。

ヤスリブの熱病で弱っていると思っていた多神教徒たちに、力を見せるためです（『サヒーフ・ブハーリー』4256；第 7–8 章）。

## 4. ラマルは今日でも推奨されていますか。

はい。男性については、ウムラまたはハッジの最初のタワーフで、最初の三周に行います。アッラーの使徒 ﷺ は、マッカがすでに開かれていた別離の巡礼でもそれを行われました（『サヒーフ・ムスリム』1262；第 8 章）。女性にはラマルは推奨されていません。

## 5. アッラーの使徒ﷺはイフラーム中にマイムーナと結婚されたのですか。

イブン・アッバースはそうだと言いますが、マイムーナ自身とアブー・ラーフィウは、使徒はすでにイフラームを解いておられたと言います。多数派の学者は、自分のことを最もよく知る当事者としてマイムーナの伝承を優先します（『サヒーフ・ムスリム』1411；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』841；第 17 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

### 6. ハムザの娘の養育権を得たのは誰ですか。

ジャアファルです。その妻アスマー・ビント・ウマイスが、その子の母方のおばだったからです。アッラーの使徒 ﷺ は言われました：「母方のおばは母と同じ立場である」（『サヒーフ・ブハーリー』4251；第 14 章）。

### 7. なぜアッラーの使徒 ﷺ はハムザの娘を娶られなかったのですか。

ハムザは使徒の乳兄弟であり、その娘は結婚が禁じられた乳兄弟の娘だったからです（『サヒーフ・ブハーリー』2645；第 15 章）。

### 8. ムスリムは強かったのに、なぜ三日後に退去したのですか。

それが和約の条件だったからです。アッラーの使徒 ﷺ は約束を完全に守られました（『サヒーフ・ブハーリー』4252；第 12 章）。約束を守ることは信仰の一部です。

### 9. 今日、ウムラの完遂を妨げられた人の規定は何ですか。

各法学派の詳細に従い、犠牲（ダム）を屠って剃髪または散髪をすることでイフラームを解きます。条件付きでイフラームに入っていた場合は、イシュティラートを認める法学派によれば、ダムなしにイフラームを解きます（第 24 章）。

### 10. ハーリド・ブン・アル＝ワリードはカダーのウムラを目撃したのですか。

スィーラ書によれば、ハーリドはムスリムを見たくないためにマッカを離れ、その後、兄弟のアル＝ワリード・ブン・アル＝ワリードがかれに手紙を書きました。かれはその数か月後に入信しました（第 19 章）。これはスィーラ書の伝承です。

### 11. アブドゥッラー・ブン・ラワーハとはどのような人ですか。

ハズラジュ族出身のアンサールの教友で、アッラーの使徒 ﷺ の詩人であり、アカバの誓いのナキーブ（代表）の一人です。マッカで詩を詠んだ数か月後、ムウタで第三の司令官として殉教しました（第 6 章；第 19 巻）。

## 12. カダーのウムラから私たちが学ぶ主な教訓は何ですか。

アッラーの約束は確かであること；忍耐は実を結ぶこと；困難であっても約束を守ること；スンナに従って崇拝行為を守ること；そして良い品性が最も効果的な宣教となることです（第 28 章）。

## 教訓

これらの質問は、クルアーン、真正なハディース、スィーラ書の伝承、そして法学者の見解を区別することの大切さを示しています。そうすることで、私たちは確かな教訓を得、正当な見解の相違を尊重することができるのです。

## 教訓と結び

カダーのウムラは**約束の成就**です — 使徒の夢におけるアッラーの約束と、フダイビーヤの和約におけるアッラーの使徒 ﷺ のクライシュへの約束の。短い三日間の中で、それは忍耐、力、服従、公正、そして思いやりを教えています。

| 教訓 | カダーのウムラから |
|---|---|
| アッラーの約束は確か | 真実の夢は一年後に実現した |
| 忍耐は実を結ぶ | フダイビーヤで阻まれた人びとが、いま安心して入る |
| 約束を守る | 三日後きっかりの退去 |
| 共同体の力 | 「ヤスリブの熱病」に応えるラマル |
| 純粋なタウヒード | ウマル：「おまえはただの石だ」 |
| 孤児への愛情 | 三人の教友がハムザの娘を養うことを競う |
| 公正と英知 | 「母方のおばは母と同じ」と三つの称賛 |
| 宣教としての品性 | その後のハーリドとアムルの入信 |

### 私たちの生活の中のカダーのウムラ

私たちは誰もが自分の「フダイビーヤ」をもっています — 延期された夢、まだ聞き届けられない祈り、妨げられた計画。カダーのウムラは、**絶望しないこと**、困難であっても約束を守ること、そしてアッラーが最善の時に扉を開いてくださると信じることを教えてくれます。

インシャーアッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは**第 19 巻** — カダーのウムラの後の出来事 — へと続きます。ワッラーフ・アアラム（アッラーが最もよくご存じです）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

# 参考文献


## クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（雌牛章 2:158、2:194、2:196；イムラーン家章 3:96–97；婦人章 4:23；悔悟章 9:7；勝利章 48:27）。https://tafsir.app/ibn-katheer/48/27

## ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』3、1597、1605、1643、1773、1778、1889、2645、2731、3364、4251、4252、4255、4256、4257、4258、4259、4262、4287、5304。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』121、1262、1409、1411。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』841、2847；『スナン・アビー・ダーウード』2276。https://sunnah.com

## スィーラ書と注釈書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）— カダーのウムラの章。

アル＝ワーキディー『遠征の書（アル＝マガーズィー）』；イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』。

イブン・アル＝カイイム『ザード・アル＝マアード』— カダーのウムラの節。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー：サヒーフ・ブハーリー注釈』— 遠征の書、カダーのウムラの章；『アル＝イサーバ』。

サフィーユッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』— カダーのウムラの章。

## 科学

Witkowska-Zimny, M. & Kaminska-El-Hassan, E. (2017). Cells of human breast milk. Cellular & Molecular Biology Letters, 22, 11. https://doi.org/10.1186/s11658-017-0042-4


© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | 

## 一般の歴史

Wikipedia「First Pilgrimage」。https://en.wikipedia.org/wiki/First_Pilgrimage

Wikipedia「Maymunah bint al-Harith」。https://en.wikipedia.org/wiki/Maymunah_bint_al-Harith

Wikipedia「Abd Allah ibn Rawahah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abd_Allah_ibn_Rawahah

Wikipedia「Black Stone」。https://en.wikipedia.org/wiki/Black_Stone

Wikipedia「Umrah」。https://en.wikipedia.org/wiki/Umrah

## ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』4255（ウムラの際に教友たちがアッラーの使徒 ﷺ を守る）。https://sunnah.com/bukhari:4255

『サヒーフ・ブハーリー』1810（イブン・ウマル：妨げられた者の規定）。https://sunnah.com/bukhari:1810

『スナン・アビー・ダーウード』1862（イフラーム中の骨折や足の不自由）。https://sunnah.com/abudawud:1862

『サヒーフ・ブハーリー』5089（ドゥバーア・ビント・アッ＝ズバイル：条件付きのイフラーム）。https://sunnah.com/bukhari:5089

『サヒーフ・ムスリム』1207（条件付きのイフラーム）。https://sunnah.com/muslim:1207

『サヒーフ・ブハーリー』183（イブン・アッバース、マイムーナの家に泊まる）。https://sunnah.com/bukhari:183

『サヒーフ・ブハーリー』75（イブン・アッバースのための祈り）。https://sunnah.com/bukhari:75

『サヒーフ・ブハーリー』143（「かれに宗教の理解をお与えください」という祈り）。https://sunnah.com/bukhari:143

『サヒーフ・ブハーリー』1989（マイムーナとアラファの日の一杯の乳）。https://sunnah.com/bukhari:1989

Wikipedia「Maymunah bint al-Harith」。https://en.wikipedia.org/wiki/Maymunah_bint_al-Harith

## 支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

**雌牛章 2:261**

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

**サバア章 34:39**

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

**ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番**

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

**訳：**

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

**伝承経路：** イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

**出典：** イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

**等級：** サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

**ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番**

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

**訳：**

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

**伝承経路：** イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

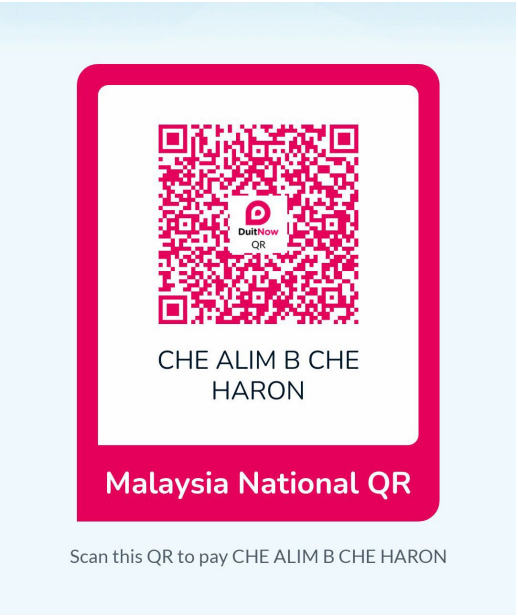
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

**出典：** イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

**等級：** サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

## ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。




海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience